

1.3.2 植物

- 青梅の森は、阿須山（加治）丘陵の西端部に位置し、気候は暖温帯気候^{※4}に含まれ、台地に比べて降水量は多く、山地の影響下にある。このため、アラカシ、ヒサカキ、イヌツゲ等の照葉樹林^{※5}に生育する植物や、リョウブ、イヌシデ等の山地帯に生育する植物が見られる。植物相としては、尾根や谷が入り組んだ地形と、青梅の森の大部分を占めるコナラを主とした二次林^{※6}やスギやヒノキの人工林^{※7}といった代償植生^{※8}を反映して、乾性から湿性地に成立した二次林や二次草地などの構成種が多くなっている。また、中央の谷（北谷津）は、水田が長年、放棄されてきたため、ヨシ、チゴザサなどが見られる。
- 注目される植物種としては、センブリ、ツルアリドオシ、ヒカゲヒメジソ、ハイチゴザサ、エビネ、トンボソウ、トウゴクシソバツナミ、ミズの8種が挙げられる。

※4 暖温帯気候：温帯のうち亜熱帯に近い比較的暖かな気候帯のこと。

※5 照葉樹林：温帯に見られる常緑広葉樹林の一つ。葉の表面に光沢があるシイ・クスノキ・ツバキなどが多い樹林。

※6 二次林：自然にまたは人為的に再生した森林。

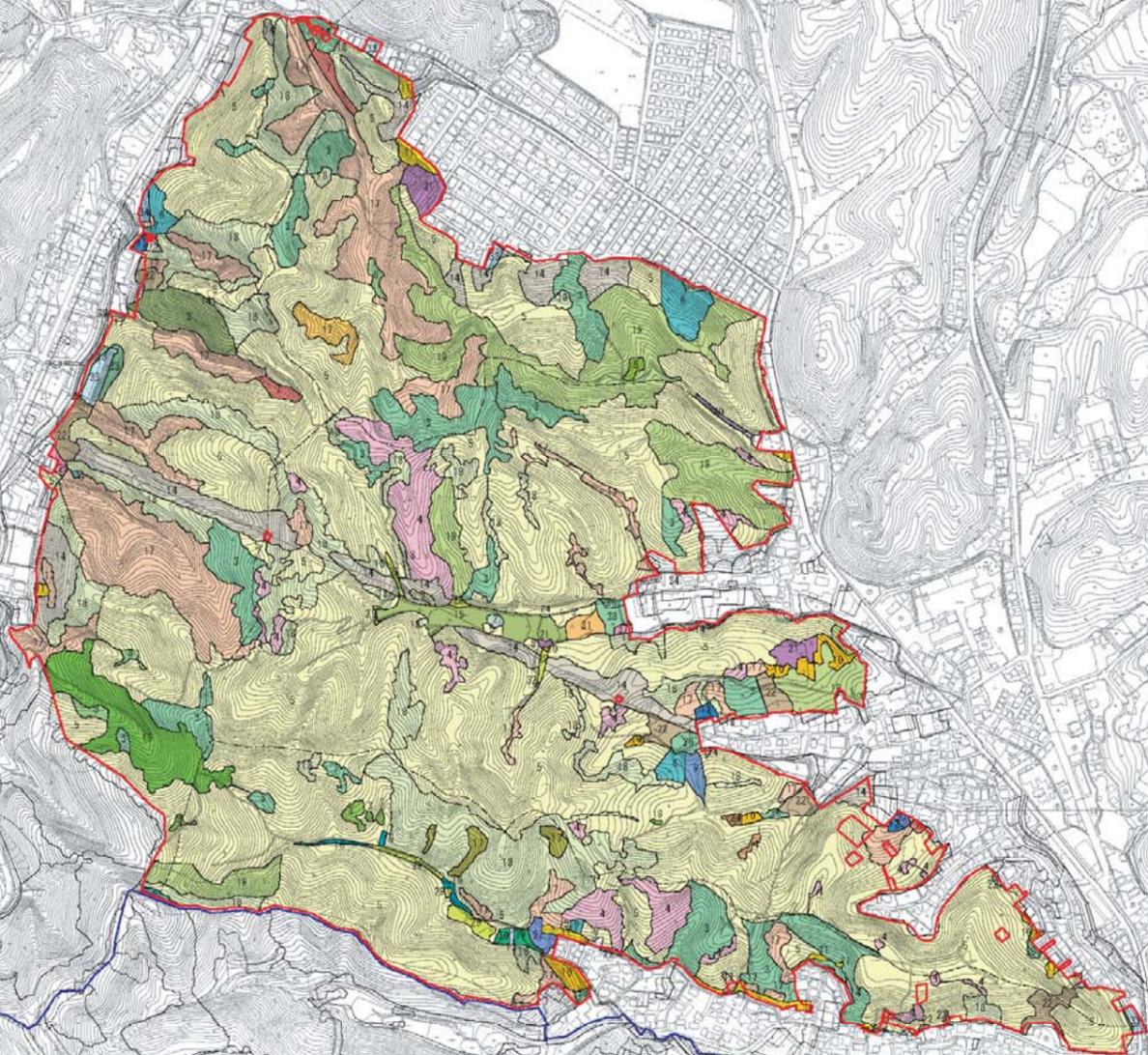
※7 人工林：原生林が伐採や災害によって破壊された後、種まきや植栽などにより人為的に作った森林。

※8 代償植生：人間の活動（焼畑、火入れ、開墾、干拓、伐採、植林など）によってその土地本来の植生（自然植生）に代わって生じた植生のこと。

現存植生図



0 100 200 300 400 500m



凡例

植生区分	計画区域面積 (ha)	割合 (%)
1 ケヤキ群落	0	0
2 タチヤナギ群落	0.03	0
3 コナラ・スギ・ヒノキ混交林	6.04	6.6
4 アカマツ林	2.49	2.7
5 クリーコナラ群落	48.67	53.2
6 クリーコナラ群落(閑牧・下刈有)	0.66	0.7
7 アカメカシ群落	0.23	0.3
8 ヒスキ群落	0.16	0.2
9 オオバヤシヤブ群落	0.11	0.1
10 アスマネササ群落	0.4	0.4
11 アスマネササ・ススキ群落	0.41	0.4
12 平ガヤスススキ群落	0.09	0.1
13 イタドリ群落	0.01	0
14 伏倒跡地群落	3.36	3.7
15 ヒソツバ群落	0.57	0.6
16 セキシウ群落	0.09	0.1
17 スギ林	8.53	9.3
18 ヒノキ林	9.32	10.2
19 スギ・ヒノキ林	7.45	8.1
20 スギ・ヒノキ林(湖床)	0.04	0
21 ニセアカシア群落	0.46	0.5
22 モウソウチク林	0.85	0.9
23 マダケ林	0	0
24 雑草・空き地雑草群落	0.04	0
25 果樹園	0.04	0
26 茶畑	0	0
27 稲藪群落	0.09	0.1
28 水田雑草群落	0	0
29 ヒソツバ群落	0.27	0.3
30 ヒソツバ群落(ススキ混生)	0.09	0.1
31 チコササ群落	0.13	0.1
32 ケキツネノボタン群落	0	0
33 市街地	0.24	0.3
34 緑の多い住宅地	0.14	0.2
35 公園	0	0
36 造成地	0.14	0.2
37 開放水域	0.02	0
38 残存植栽群落	0.53	0.6
計	91.7	100

※ 上表の数値は、航空写真を基にした図上計測による。

—	青梅の森特別緑地保全地区
—	永山公園